

京都ボランティア協会2021年度事業報告

目次:

<事業>

- | | |
|---------------------------|-------|
| 1 【ボランティアコーディネート事業】 | …2ページ |
| 2 【援助・交流事業】 | …4ページ |
| 3 【広報事業】 | …6ページ |
| 4 【研修事業】 | …7ページ |
| 5 【研究事業】 | …8ページ |
| 6 【地域における社会福祉の推進事業】 | …8ページ |
| 7 【評価・調査事業を通じ社会福祉を推進する事業】 | …8ページ |
| 8 【企業・労働組合の社会貢献活動の推進】 | …9ページ |

<組織・運営>

- | | |
|---------------|--------|
| 1 【組織・運営体制整備】 | …10ページ |
|---------------|--------|

<事業>

【1. ボランティアコーディネート事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果・課題	改善策
<p>ボランティアコーディネートの実施</p> <p>在宅でのボランティア活動 グループ活動 (協会内外)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の啓発と推進。 ・地域で困難を抱える人たちとのボランティア活動を通じての交流、ひいては社会貢献。 ・ボランティア登録者継続と増加の推進。特に在宅生活者の依頼に応える。 ・相談業務等から見える生活・福祉ニーズの把握と分析。 ・地域資源の把握(新たなボランティア活動先、受入先の開拓など)。 	<p>①ボランティア相談(ボランティア活動希望者およびボランティア依頼者からの相談)を行う。</p> <p>②ボランティア学習会・研修会等を実施する。</p>	<p>①ボランティア相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア相談の実施→126件(2020年度168件、2019年度151件) ・ボランティアしたい相談→18件 なお、ボランティア登録者→16人(2020年度37件、ボランティア登録者38人)(2019年度24件、ボランティア登録者69人) ・ボランティアもとむ相談→108件(2020年度131件、2019年度127件) 相談の内、ボランティア紹介数99件(2020年度96件、2019年度90件) <p>内他団体紹介し完結した相談は2件(2020年度3件、2019年度4件) 今年度も地域の社会資源を活用したが、更なる地域の社会資源の活用が必要になると思われる。</p> <p>【添付資料参照】</p> <p>②ボランティア学習会・研修会等を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「心の栄養支援講座」は新型コロナウイルスの蔓延により実施出来なかった。 ・「公開講座」を実施した。(【4. 研修事業】参照) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ボランティアしたい」新規相談者に対し、登録まで結び付けられるよう、相談後の状況を丁寧にフォローしていく必要がある。 ・継続のボランティア及び当協会会員のボランティア保険の費用は、当協会負担としているが、今後も同様に取り扱うことが望ましいと思われる。 ・個々のボランティアニーズに対する対応力は極めて脆弱なものとなってきている。そこで、2022年度より「個人ボランティア登録規程」を整備し、個人登録ボランティアの確保と需給調整の取り組みを始めるので、個別のボランティアニーズに対応できる体制づくりを進めていきたい。

	<p>③ボランティア登録者の増員と交流を図る。</p>	<p>③ボランティア登録者の増員と交流 ・ボランティアを含む会員を対象とする交流会(クリスマス会)は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため規模を縮小し、12/23(木)に実施。</p>	<p>・ボランティア登録会、あるいは相談会等の開催について検討する。</p> <p>・ボランティア活動継続後の連絡等を密にし、活動者の声を発信する機会を増やしていく。ボランティア活動希望者(登録者)同士の交流機会をつくり、仲間づくりや支え合う機会づくりについて考える。</p> <p>・ボランティアをされた方の意見を丁寧に聞くことにより状況把握に努める。</p>
	<p>④ボランティアコーディネート事業体制を整備する。</p>	<p>④ボランティアコーディネート事業体制の整備 ・1名の嘱託職員が主に担当し、3名の嘱託職員が他業務を兼務して受付した。</p>	
	<p>⑤福祉ボランティアセンターとの連携を図る。</p>	<p>⑤京都市福祉ボランティアセンターとの連携 ・広報の依頼を積極的に行っている。個別のボランティア相談は3件であった。(2020年度8件、2019年度5件)</p>	<p>・京都市福祉ボランティアセンターの広報紙「ボランティアーズ(volunteers)」に、ちよいボラの紹介、ウエス材料、古切手募集の記事を掲載していただいた。</p>
	<p>⑥大学・地域等への事業紹介等広報活動を実施する。</p>	<p>⑦ワタキューグループは研修の機会を捉え紹介しているが、活動になかなか結びつかない。発信し続けることの必要はある。大学のボランティア活動との連携を検討する必要がある。</p>	<p>・菊浜学区の行事も新型コロナウイルス感染防止のために中止されたものが多いが、状況が改善すれば学区の行事参加への継続は必要である。</p>

【2. 援助・交流事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果・課題	改善策
「第11回きょうボラふれあい祭」開催予定	<ul style="list-style-type: none"> ・新たなボランティアスタッフの人材発掘と育成。 ・ボランティア、関係団体、企業等との交流、連携推進。 ・新たな活動の創造・発信。 ・ボランティア中心に、祭準備段階から企画・運営を参加団体と実行委員会・事務局が連携強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ボランティアスタッフ等の募集と学習会を行う。(随時募集) ②実行委員会(企画・運営)を設置する。 ③祭のホームページを管理する。 ④バザー物品、抽選物品を確保する。 ⑤広報の充実(パンフレット・チラシ他)を図る。 ⑥福祉ボランティアフェスタ1参加団体として参加する。 ⑦祭り記録・報告書を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「第11回きょうボラふれあい祭」は、新型コロナウイルス感染拡大のため、開催出来なかった。2022年度の再開に向けて、「ふれあい祭実行委員会」定例ミーティングを11月より開始した。 福祉ボランティアフェスタは開催されなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続することでみんなが集まれる交流の場としての意義があり「居場所」でもある。また、高齢者や障がい者と交流する機会でもある。 ・手作りのイベントも委員だけでは難しく、多くのボランティアと関わるには職員・ボランティアの養成も必要である。当日参加のボランティアには、説明会の参加を義務づけて実行委員の負担を軽減したい。
ボランティアビューロー活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な興味や関心を持つ人たちとの交流(サークル・グループ)を通じた仲間づくり。 ・多様なメニュー企画立案作りによる人材及び団体交流。 	<ul style="list-style-type: none"> ①単発活動企画の年間計画化を図る。 ②居場所機能の活性化(メンバー募集、仲間作り等)を図る。 ③活動のグループ化、自主運営化を図る。 ④新規グループ作りを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン・英会話・囲碁・油絵・折り紙等サークル活動での学びと教えるという交流で仲間づくりを楽しんだ。 ・ちょいボラなどに社会的に不安を抱く参加者があり、ボランティアスタッフが対応した。 ・ボランティアビューロー事業はほぼ自主運営ができた。参加費が安価で希望者が多い。 ・サークル活動として、ボランティアの講師により、2020年6月から開始された「折り紙教室」は、月1回(第4火曜日)に順調に開催されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の参加が多い。サークル活動のボランティアの講師は高齢者も多く、これらのボランティアへの継続的な支援が必要である。 ・ボランティアスタッフへの継続的な支援が必要である。 ・2022年度から「ボランティアビューロー管理運営規程」を整備し、活動グループとの連携強化を図っていくとともに、ビューローを拠点とした事業展開を図っていく必要がある。 <p>【添付資料参照】</p>

<p>高齢者と社会的に不安を抱く若者グループの居場所づくり</p>	<p>①・手軽に出来るボランティア、だれでも出来る工コ・リサイクル活動。 ・地域住民への社会貢献活動の啓発や就労支援の活動(障がい者とともに)。 ②大徳寺分室等での今後の活動として居場所としての事業はもとより、メンバーの得意分野を生かした作業に取り組める居場所づくり。</p>	<p>①古着、使用済タオル及び使用済切手等のリサイクル(ウエス作業、バザー等)の推進を図る。 ②・メンバーの得意分野を生かした作業に取り組む。 ・地域の高齢者が気軽に來ることが出来るサロン(例:認知症予防ゲーム、歌声広場等)で認知症やひきこもりなどの予防を図る。</p>	<p>①社会的に不安を抱く若者たちが、ボランティアスタッフの指導により、月2回のウエス作業等を行っている。 ②大徳寺分室の活動は、新型コロナウイルス感染防止のため実施されなかった。</p>	<p>①近年は、ウエス作業の材料が不足していたが、今年度は、京都新聞への掲載、「ボランティアーズ」への掲載およびホームページの閲覧等により、多くの材料の寄贈が得られた。 ②大徳寺分室の今後の活動についての検討が必要である。</p>
-----------------------------------	--	--	---	--

【3. 広報事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果・課題
<p>「ポランタス」、「京ボラチャンネル」、「京ボラチャネル」他広報事業</p>	<p>「ポランタス」、「きょうボラ」、「京ボラチャンネル」他媒体による情報提供と発信。 ・ホームページにて情報の公表を行うことによる、広く市民への広報活動。</p>	<p>「ポランタス」は2021年11月号より誌面を一新した。以前の8ページ構成から4ページ構成に変更し。白黒版からフルカラー版(写真も写真モードで印刷)に変更した。</p> <p>ホームページを管理する。</p> <p>講座等のちらしを作成する。</p>	<p>年間3回(理事等の巻頭言、主な事業の報告やお知らせ等を掲載)発行した。</p> <p>・新聞社をはじめとして、京都新聞社会福祉事業団、京(みやこ)福祉の研修情報ネット、京都市福祉ボランティアセンター、誕生日ありがとう運動友の会京都(折込)ほかに送付し、広報した。</p> <p>・(会員外の)寄付者、物品等寄贈者に次回発行の「ポランタス」を送付した。</p> <p>・ホームページでは、随時更新できるように編集プログラムが組まれており、イベント・新着情報を見やすいように工夫した。</p> <p>・行事カレンダーの更新を行った。</p> <p>・システム管理者(会員)を配置し、保守点検なども依頼した。</p> <p>・講座等のちらしを作成し、必要に応じてポランタスへの同封や関係団体等への配布などを行った。</p>
		<p>「京ボラチャンネル」を作成し、広く社会福祉に貢献している方々にお話を伺い、YouTubeの動画として、ホームページに掲載する。</p>	<p>・理事長 竹下義樹との対談形式で、以下の日程で動画撮影及びYouTubeへのアップをおこなった。 <撮影> ・2021年09月26日(日) 松本淳子氏 (「わの会京都」代表) ・2021年10月26日(日) 上村正文氏 ・2021年11月07日(日) 岩佐敏子氏 ・2022年01月16日(日) 河田桂子氏 (若者と家族のライブプランを考える会代表) <YouTubeへのアップ> ・2021年10月27日(日) 松本淳子氏 ・2021年12月06日(月) 上村正文氏 前編 ・2021年12月28日(火) 上村正文氏 後編 ・2021年12月28日(火) 公開講座「一人住まいでも 最期まで地域で」 ・2022年02月19日(土) 岩佐敏子氏</p>

【4. 研修事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果
<p>高齢・障がい・医療分野等の講座実施</p>	<p>・各領域で求められるボランティア像を知り、実践や体験活動を取り入れ、人材発掘の機会を増加。 ・各領域の課題を学び、ボランティアグループ、NPO団体等との連携の推進。 ・「心の栄養支援養成講座」連続シリーズ+障害編。</p>	<p>① ボランティア活動にあたっての知識・技術を身につける講座・研修を開催する。 ② 各領域の現場で当面している課題を現場から学ぶ。 ③ ボランティア研鑽とボランティア同士の交流、特に福祉領域のボランティア活動の敷居を低くし、互いに支え合う活動を増やす。 ④ 地域生活で求められているボランティアを知る機会をつくる。 ⑤ 在宅生活を豊かにすることを手伝えるボランティアを知り、実践や体験活動を取り入れた内容の講座づくりをする。</p>	<p>・公開講座「一人住まいでも 最期まで地域で」 1 日時：令和3年11月20日(土) 13時30分～15時40分 2 場所：「ひと・まち交流館 京都」2階 大会議室 3 実践報告発表 ① ～今までも変わらない生活を継続するために～ 社会福祉法人 清和園 法人「在宅特養」推進プロジェクト プロジェクトリーダー 中西 博嗣 氏、プロジェクト担当 上林 優 氏 ② ～対話ボランティア活動を通して社会的孤立を防ぐ～ わの会・京都 代表 松本 淳子 氏 ③ ～地域連携によるカギ預かり事業について～ 山科区西野学区民生児童委員協議会 会長 地野 隆 氏 4 問題提起とまとめ 龍谷大学名誉教授 加藤 博史 氏 「一人住まいでも 最期まで地域で」というテーマで、最期まで地域で暮らしていく実践を進めている事業所や、地域の高齢者に対する取り組みなど、必要なサービスや地域社会のあり方などをシンポジウム方式で実施し、73名の参加者があり満足度92%であった。 ・高齢者・障害者分野の研修は、「心の栄養支援講座」の形態で毎年行われて来たが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により中止となった。来年度よりどんな形で再開させるか。また違ったものに発展させるかが今後の課題となる。</p>
<p>ワタキョーグループ 新入社員研修(6/23 ～6/24)73人 福祉施設ボランティア 体験講座の企画・講師派遣</p>	<p>・ボランティア精神を学び、座学や体験活動を通じての「人間力」育成。 ・企業等の社会貢献活動の啓発や推進。</p>	<p>・ボランティア活動の意義を知り、実際に体験活動を通じて現場の職員や当事者と交流する機会をもつ。 ・社会貢献のあり方・意義を学ぶ機会を提供(ボランティア活動紹介や、講師派遣等)する。 ・ボランティア活動や講座の情報提供を発信する。</p>	<p>・第10回目となる新入社員(77人)研修であるが、新型コロナウイルス感染症防止のため、最小限の座学のみ実施した。 ・2021年5月12日(水)・13日(火)に実施され、好評であった。</p> <p>「ボランティア」を研修に取り入れた効果 果を教育現場・他企業にも発信し、ボランティアの普遍的な意義をアピールしていく必要性を感じた。</p>
<p>その他必要な講座の実施及び講師紹介・派遣の実施</p>	<p>・当協会が目的とする市民福祉増進の一環として、各領域で求められる研修等の講師の紹介・派遣。</p>	<p>① 地域等への研修等の講師紹介・派遣を行う。</p>	<p>① 今年度の依頼は無かった。</p>

【5. 研究事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果
ボランティア活動に関する調査研究	京都市内におけるボランティア活動状況の把握 把握および「京都ボランティア白書(仮)」の発行。	「京都ボランティア白書(仮)」の発行にむけた調査・編集委員会を立ち上げ、ボランティア活動支援を行う諸団体等と発行にむけた検討会を行う。	・「京都ボランティア白書」は2022年3月に初版本を発行した。

【6. 地域福祉推進事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果
災害支援活動	人的支援・物的支援等の後方支援。	①募金活動を行う。 ②イベント開催時に募金箱を設置する。	・募金箱の設置などの地道な活動を継続し、12月に京都府共同募金会に寄付した。

【7. 評価・調査事業を通じ社会福祉を推進する事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果・課題	改善策
地域密着型外部評価事業の充実	・質の高い評価	①地域密着型外部評価事業を行う。 ②評価員の研修体制の充実を図る。 ③主任を養成する。	<p>成果・課題</p> <p>・評価実績 40件(申込件数) 【前年度比 108%(2020年度37件)】</p> <p>※なお、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、2021年度受審申込分のうち6件は、訪問調査を年度繰越(延期)した。また、2020年度繰越(延期)の4件の訪問調査は実施した(実質2021年度の訪問調査は38件)。</p> <p>・評価調査者の質の向上と均質化 ・主任調査者を始め評価調査者の高齢化等 ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴った訪問調査延期案件の迅速かつオンライン調査を活用して実施</p>	<p>改善策</p> <p>・緩和経過措置後の外部評価の実施は2年毎で実施当該年度に確実な評価受審を促す。 なお、令和3年度の介護報酬改定に伴い、事業者の外部評価の選択(事業所内の運営推進会議と外部評価機関)に関する、当該事業者に対して当機関の適性・公正及び信頼性のある外部評価を積極的に広報し、信頼を獲得するよう努める。 ・主任調査者の養成、評価調査者の育成とフォローアップ研修を通じた評価内容の質の向上と均質化を図る。 ・調査員増員と安定した調査基盤の確立のため新規評価調査者を確保し養成する。 ・多数の事業所を運営する法人・企業に対して協会関係者が一体となって受審の獲得を目指す。 ・評価調査者における訪問調査実施回数等の平準化を図る。 ・新型コロナウイルス感染症拡大状況に際し、関係機関・事業主と密接な情報共有を行い、迅速かつオンラインを活用した調査を実施する。</p>

<p>介護サービス第三者評価事業の充実</p>	<p>・質の高い評価</p>	<p>①介護サービス第三者評価事業を行う。 ②評価員の研修体制の充実を図る。 ③主任を養成する。</p>	<p>介護・福祉サービス第三者評価は同一の評価事業のため、一括して記載。 ・評価実績 18件(申込件数) 【前年度比 86%(2020年度21件)】 ※なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、2021年度受診申込分のうち6件は、訪問調査を年度繰越(延期)した。また、2020年度繰越(延期)の13件の訪問調査は実施した(実質2021年度の訪問調査は25件)。 〔 介護サービス評価実績 13件 福祉サービス評価実績 5件 〕 ・本年度の申込実績の減少は、福祉サービス施設の受診申込の減少によること(義務化ではないこと)。 ・評価調査者の質の向上と均質化 ・主任調査者を始め評価調査者の高齢化 ・新型コロナウイルス感染拡大に伴った訪問調査延期案件の迅速な実施</p>	<p>介護・福祉サービス第三者評価は同一の評価事業のため、一括して記載。 ・事業者における当該評価は、3年毎の受診がベース(義務化ではないこと)であり、次回当該年度に確実に評価受診申込みを促す。 ・そのため、当該事業者に対して当機関の適性・公正及び信頼性の広報用パンフレットを作成するなどして、積極的に広報し信頼を獲得するように努める。 ・主任調査者の養成、評価調査者の育成、フォローアップ研修を通じた質の向上と均質化を図る。 ・調査員増員と安定した調査基盤の確立のため新規評価調査者を確保し育成する。 ・多数の事業所を運営する法人・企業に対して協会関係者が一体となって受診の獲得を目指す。 ・評価調査者における訪問調査実施回数 の平準化を図る。 ・新型コロナウイルス感染拡大に伴った訪問調査延期分は、関係機関・事業主と密接な情報共有を行い、迅速に実施する。</p>
<p>福祉サービス第三者評価事業の充実</p>	<p>・質の高い評価</p>	<p>①介護サービス第三者評価事業を行う。 ②評価員の研修体制の充実を図る。 ③主任を養成する。</p>	<p>・それぞれの評価業務のフロー図の作成や書式の設定などを整理した。特に、外部評価における事務補助的なフローを特定し、他事業の職員の応援体制が執行できるようにし、効率化に努めた。 ・調査員の均質化のため、「地域密着型サービス外部評価 訪問調査における実践ガイド」を作成した。 ・訪問調査における事前資料の印刷費など元費の削減に努めた。</p>	<p>評価実施責任者の下、企画運営委員会委員、評価調査者及び審査委員との情報共有を積極的に行い、事務的手法の課題等を洗い出し、更なる合理化・効率化を積極的に図り、元費の削減に努める。</p>
<p>【8. 企業・労働組合の社会貢献活動の推進】</p>				
<p>事業項目 企業・労働組合との協働と交流</p>	<p>事業目的 ・企業等の社会貢献活動の啓発や推進。</p>	<p>事業内容 ①協会事業(祭等)への参加および企画等への参画を図る。 ②社会貢献のあり方・意義を学ぶ機会を提供(ボランティア活動紹介や、講師派遣等)する。 ③ボランティア活動や講座の情報を提供する。</p>	<p>成果 ・「ボランティア」を送付した。</p>	

＜組織・運営＞

【1. 組織・運営体制整備】

事業項目	事業目的	事業内容	成果
組織基盤の強化	・会員拡大・確保に取組み組織基盤の強化。 (賛助会員の拡大)	<ul style="list-style-type: none"> ① 会員拡大委員会の設置を検討する。 ② イベント等参加団体・者への会員案内・勧誘を行う。 ③ 各新聞社・関係団体の広報媒体を活用する。 ④ 理事、会員との交流の機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 会員数196人+13団体。(2019年度209人+10団体、2019年度222人+12団体) ② 講座等で会員案内を配布した。会員から会員への声かけの効果が大いではないかと考えられる。 ③ 京都市福祉ボランティアセンター(「ボランティアズ」)・京(みやこ)福祉の研修情報ネット・新聞社・関係団体の広報媒体を活用した。講座案内等を京都新聞社や京都新聞社会福祉事業団に依頼し、掲載してもらった。 ④ 一堂に会しての「きょうぼうふれあい祭」が開催されなかつたため、そこでの理事との交流は図れなかつたが、「ボランタス」の巻頭言を理事等の役員が交代で書くことにより、会員との交流を図る一助となった。「第11回きょうぼうふれあい祭」実行委員会に、会員、理事および事務局員が出席し、意見交換や交流の機会を得た。
運営体制の整備	・ボランティアと協調しつつ、迅速効率的な事務執行体制を築き、運営体制の整備。	<ul style="list-style-type: none"> ① 一般社団法人移行後の公益事業の活性化を図る。 ② 事務局体制の整備(人員の補強)を図る。事務局ボランティアスタッフの拡充を図る。 ③ 理事、ボランティアスタッフ、事務局員との連携強化を図る。 ④ ボランティアスタッフ研修会を開催する。 ⑤ 評価・調査機関としての管理・運営体制を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 一般社団法人化認定を受けて、公益目的支出計画書を毎年提出することが義務付けられている。公益事業の進展を図ることが不可欠である。 ② 公益事業及び収益事業の事業経費より人件費、調査人件費が主な経費となっている。公益事業の印刷費・通信費等は京都市福祉ボランティアセンターが負担している。会員の中からボランティア事務局スタッフを採用し、長時間のボランティアビューローの管理にご協力をいただいた。財政の安定化を図り、事業方針を確定し、事業の充実を図ることが重要であると同時に、事務のコストダウン・効率化をはかることが必要である。 ③ 会場参加とZoom参加による「第11回きょうぼうふれあい祭」実行委員会を1回開催し、理事、ボランティアスタッフ、事務局との意見交換・交流を行った。 ④ 「公開講座」「心の栄養支援講座」の開催の情報等を広くボランティア・一般の方に広報した。 ⑤ 主たる担当者を配置しているが、従たる担当者の配置について検討する必要がある。

<p>ボランティアビューロー・3階のボランティアセンターの一部の管理・運営</p>	<p>・有効な管理運営及び友好的で開放的な場の構築。</p>	<p>①利用状況を把握・管理する。</p> <p>②ボランティアビューロー活性化事業を促進する。</p> <p>③広報物を掲示・整理する。</p>	<p>①当協会事業(サークル・グループ活動、ボランティア等発送業務、評価事業の企画運営委員会等)も利用した。 他の団体・一般にも声をかけ、さらに輪を広げる必要がある。(第3回利用者人数:のべ1,287人(2020年度1,553人、2019年度3,326人)。(第3回緊急事態宣言5/1~5/31、第4回緊急事態宣言9/1~9/30は閉室。))</p> <p>・ボランティアビューローの開室時間が、午前9時から午後9時半(12時間半)の長時間に及ぶため、会員の中から、今年度もボランティア事務局スタッフを依頼し、主にボランティアビューローの管理等をお願いした。 京都市福祉ボランティアセンターの夜間受付業務のパート職員は、福祉ボランティアセンターの同業務以外にも当協会事務局の庶務作業も担った。</p>
<p>財源の確保</p>	<p>・財源確保による安定的事業運営。</p>	<p>①会員拡大を図る。</p> <p>②助成金を確保する。</p> <p>③ボランティア団体賠償保険について検討する。</p>	<p>③広報物の展示、整理を心がけた。</p> <p>②京都市共同募金会・京都新聞社会福祉事業団・京都府からの助成金、京都市からの補助金及びイオン幸せの黄色いレシートキャンペーン・国際ソロプチミスト京都・会員・一般等からの寄付があった。</p> <p>③ボランティア保険および行事保険等との重複補償はされないことが明確になったため、更新契約を行わないこととした。</p>

寄付者名(敬称略、順不同)

ボラ基クラブ

山崎 孝江
上村 正文
岡本 民夫
名賀 亨
一般の方々(未使用切手・収入印紙)

余根田 保
安田 行雄
内藤 雅子
上田 亮子

団体等寄付・助成金・補助金(敬称略、順不同)

イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン
国際ソロプチミスト京都
京都府共同募金会
京都府